

三味線ナビ

聴いて納得、観て楽しい、

三味線ワールド



中国の三弦(参考)

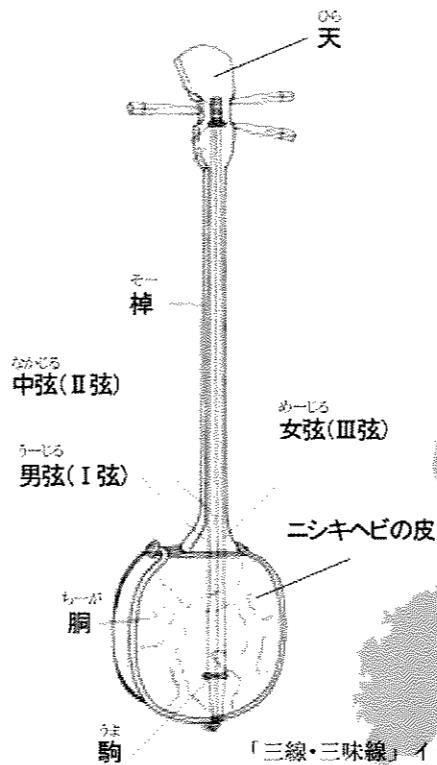
沖縄の三線

日本の三味線

沖縄の楽器

三線は、沖縄がまだ“琉球”と呼ばれていた時代、1400年頃以降に中国から伝えられました。胴にはニシキヘビの皮が張られ、棹は黒檀と呼ばれるとても固い木が使われ、その上に漆が塗られています。弦は絹糸でしたが現在では化学繊維が使用されています。右手の人差し指にパチをはめて(水牛の角や象牙などでできているツメ)音を出します。また歌と三線は一体で、三線を演奏する人は歌も歌います。

三線



「三線・三味線」イラストのみ「日本音楽基本用語辞典」(音楽之友社)より

三味線の世界へようこそ!

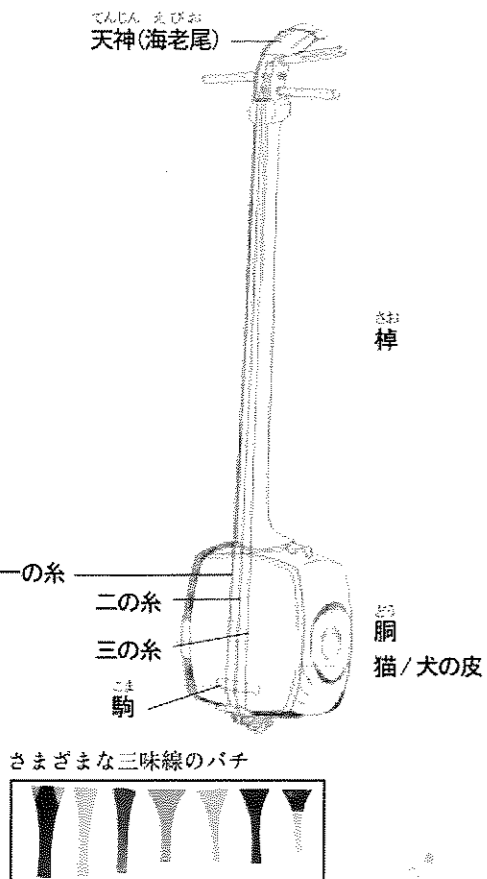
日本の楽器

三味線にはいろいろな種類があります。1500年代後半、信長や秀吉の時代に沖縄の「三線」が琵琶法師のところに持ち込まれ演奏されたため、琵琶になってパチで弾くようになったと言われていました。その後、さまざまな形で改良を重ねられました。棹の太さや胴の

三味線

大きさにより太棹三味線、中棹三味線、細棹三味線の3種類にわけられ、さらに演奏される音楽のジャンルによって材質や構造、さらに演奏法が異なります。パチや駒などもすべて違います。これらの違いが各三味線の音色や音楽性の特徴となって表れます。

三味線は、わずか3本の太さの異なった糸(弦とは言いません)ですべての音をつくり出します。しかもギターのように棹に押える目印がないため、ポジションは訓練によって体得します。押えるポジションのことを「かんどころ」と言いますが、文字通り「勘」で操るのです。また、現在の三味線の多くは棹を三分割してある「三ツ折」でジョイント部分に工芸としての伝統の技が施されています。コンパクトに折りたたんで持ち歩くことができます。



■ **長唄/長唄三味線(細棹三味線)**
歌舞伎を支える音楽を代表するのが長唄です。唄と三味線により、芝居を彩るさまざまな音楽を演奏します。用いられるのは細棹で、明るくリズムカルな曲からしつとりとした曲までさまざまな音楽を、複数で演奏するスタイルが基本です。今回は2挺2枚三味線2人唄2人のことを言います(の編成です。多いときには10挺10枚ということもあります)。

■ **義太夫節/義太夫三味線(太棹三味線)**
大坂で生まれた人形浄瑠璃・文楽に代表される伝統的な人形芝居の「ナレーター役」として、様々な登場人物の心情や情景を語るのが義太夫節です。舞台上手の「床」という場所です。太夫と三味線がペアで演奏するのが基本です。三味線は太棹で、太棹らしい重量感と迫力のある音色は、太夫の語る太く大きな声とマッチします。

■ **津軽三味線(太棹三味線)**
青森県津軽地方で民謡の伴奏などに使われる三味線のことを指しますが、最近では歌を伴わず、三味線だけで即興(アドリブ)演奏をするスタイルが注目されています。高速の力強いパチ使いと左手の「マジキ」という演奏技法が特徴です。現在は独奏楽器として、また異ジャンルとのコラボレーションが盛んに行われるなど、人気が高まっています。

三味線の材料はワールドワイド 世界から伝来

日本の伝統楽器三味線ですが、材料の主な産地はほとんど海外です!

